

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月1日現在

機関番号：17102
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22320146
 研究課題名（和文）ヴァロワ朝ブルゴーニュ国家の社会・経済・文化に関する統合的研究

研究課題名（英文）A Synthetic Study on the State of Valois Burgundy
 —Society, Economy and Culture—

研究代表者
 藤井 美男（FUJII YOSHIO）
 九州大学・大学院経済学研究院・教授
 研究者番号：70183928

研究成果の概要（和文）：

「近代国家の形成」という西欧学界の現代的課題へ貢献することを目途として、中世後期のブルゴーニュ国家を素材に、社会・経済・文化諸領域の統合的な究明を図ることを本研究の目標とした。その結果を要約するならば、(1)都市の宗教・文化的存在形態が国家制度と宮廷文化へ及ぼす影響、(2)ブルゴーニュ国家の地域的統合、ネーデルラントの統一、および都市＝農村関係の再構築の解明である。また経済史的側面からは、(3)国家財政における塩鉱山経営の位置づけ、および都市財政と国家財政との物的・人的結合の確認、(4)都市の政治機構と国家行政との関連の解明、という結論が得られた。

研究成果の概要（英文）：

Since the end of the 20th century, “Genesis of the Modern State” has been a major theme for the European historiograph. For the purpose to make some contribution to this field of research, the State of Valois Burgundy (14th-15th centuries) was taken as the main object of the historical analysis in this study.

In summary, it is demonstrated that the religious culture in medieval towns gave influence upon the formation of state institutions and upon the princely court which gave, in turn, its influence on the life of urban and rural subjects and inhabitants, and is confirmed that the regional unification as a state and the unification of Netherlands itself progressed under the reign of Burgundian dukes, and that a reconstruction of “town and countryside relationship” stood out in sharp relief.

The approach to economic domain was also made to shed light on the strong connection, in its human and institutional aspect, of the state finance with financial system of towns as well as with the activities of “Grande Saunerie in Salins” (famous salt manufacture). As a result, it can be concluded that the organization of urban government and that of state government had a close relationship in their historical development during the late Middle Ages.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2011年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2012年度	2,300,000	690,000	2,990,000
年度			
年度			
総計	10,100,000	3,030,000	13,130,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：ブルゴーニュ国家、近代国家の生成、ネーデルラント

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパ諸国家の統合に向けた現実の潮流と軌を一にしながら、近代社会の形成と国家のあり方が、すぐれて現代的な問題関心として近年盛んに問われるようになった。80年代後半以降の欧米経済史・歴史学界において強調しなければならないのが、とりわけフランス学界（一部オランダ・ベルギー・ドイツを含む）を中心に、「近代国家形成史論」を大きなテーマとして掲げ、様々な側面から論じてきたことである。しかし本研究開始前の我国学界では、そうした論究はまだ緒に就いたばかりであり、当該分野の深耕が待たれる状況にあった。

2. 研究の目的

本研究は、「近代国家の形成・生成」（その端緒は中世にまで遡り得る）という大きな議論への貢献を目途に、中世後期のブルゴーニュ国家（それは南北2つの大きな領邦ブロックから成る）を対象として、社会・経済・文化各領域の分析を通じて、同国家の歴史的意義を総合的に究明するという目的を持つ。

3. 研究の方法

分析対象としたブルゴーニュ国家が、本領南部ブロックのヴァロワ朝による継承・発展と、ネーデルラント内外にまたがる北部ブロックの継承と拡張というように、分散所領として存在することを前提として、本研究においてはそれに対応した、空間的な研究チームとして編成した。連携研究者と研究協力者を含め、それは次のような連携図と研究内容となる。

藤井美男（総括）

（北部ブロック研究班）

川原温・奥西孝至・青谷秀紀（斎藤綱子・畑奈保美・加来奈奈）

<都市社会・市場・文化的諸制度>

（南部ブロック研究班）

金尾健美・花田洋一郎・中堀博司
<都市と国家の行財政システム>

4. 研究成果

<平成22年度>

「近代国家の形成」という西欧学界の現代的課題へ貢献することを目途として、中世後期のブルゴーニュ国家—それは南北2つの大きな所領ブロックから成る—を素材に、社会・経済・文化諸領域の統合的な究明を図ることを本研究の目標とした。

初年度の2010年度には、連携研究者および研究協力者の協働により、学術論稿（著書・論文・書評等）は当然として、学会などでの発表も充実した形で実現することができた。

第1に主要論稿から列挙するならば、「近代国家形成史論」を構成する諸領域のうち、金尾論文「ヴァロワ家ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの財政」が【徴収と分配】、青谷論文「プロセセッションと市民的信仰の世界」、同著書『記憶のなかのベルギー中世』および畑論文「15世紀初期におけるフランドル都市ブルッへの参審人団」が【都市・市民・国家】、河原論文が「ブルゴーニュ公国における地域統合と都市」が【領域・法・統治システム】と、3領域を包括する内容として発表された。これらには、「資料の徹底した収集と整理に力を注ぐ」とした、初年度目的の海外調査結果（金尾：フランス、畑：ベルギー）も含まれている。

第2に、学会等における成果発表であるが、藤井・花田・中堀・畑によるパネルディスカッションと藤井・中堀・畑のミニ・パネルディスカッションが、【徴収と分配】分野での実証研究をブルゴーニュ国家について深く掘下げた。また、畑・中堀・青谷による講演会および河原、青谷の単独報告は、【文化とイデオロギー】の領域を睨みつつ、【国家と貴族】にも跨がる内容に踏み込んだものとなった。以上、主要な発表成果に絞ったが、全体として、本研究の今一つの特徴である、ブルゴーニュ国家の南北各ブロック分担研究により、均衡の取れた研究成果であることを最後に強調しておきたい。

<平成23年度>

第2年目の2011（H23）年度には、連携研究者および研究協力者の協働により、学術論稿（著書・論文・書評等）の成果を、以下の通り充実した形で実現することができ

た。

第1に主要論稿として、「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成」と題した前年度のパネル報告の内容を、別個に藤井・花田・中堀・畑の各4論文によって発表した。

これらは、「近代国家形成史論」を構成する諸領域のうち【徴収と分配】の位置を占めている。

他方、藤井論文「中世後期ブリュッセル市外市民とブラバント（ブルゴーニュ）公権—ヴァン＝アウトフェン事件を事例として—」、花田論文「中世後期フランスにおける都市議事録研究の現状と課題—最近の研究から—」および2点の青谷論文「赦しのポリティクス—中世後期ネーデルラント都市の贖宥とブルゴーニュ公—」「顕現する天上都市、遍在する永遠の都—中世後期南ネーデルラントの宗教儀礼と都市の聖地化—」が【都市・市民・国家】領域へのアプローチとなった。

以上の研究成果には、「資料の徹底した収集と整理に力を注ぐ」とした、海外調査結果（藤井：ベルギー）も含まれている。

第2に、学会等における研究発表については、藤井・花田・河原・加来による計5件のそれが、前年度に引き続き特筆する業績となっている。

以上、主要な成果に絞って記したが、全体として、本研究の今1つの特徴であるブルゴーニュ国家の南北各ブロック分担研究が順調に伸展したことを強調したい。

<平成24年度>

最終年の2012（H24）年度には、連携研究者および研究協力者の協働により、学術論稿（著書・論文・書評等）の成果を以下の通り充実した形で実現することができた。

第1に主要論稿から列挙するならば、領域・法・統治システムの分野で、河原温「シャルル・ル・テメレールと15世紀後半ブルゴーニュ宮廷の政治文化—宮廷イデオロギーの形成をめぐる—」『人文学報』（首都大学東京）2013年3月、齋藤綱子「中世エノー伯領における共同体の「自由」と制定法」『駿台史学』第147号、2013年1月を得た。また、都市・市民・国家の領域からするアプローチとして、畑奈保美「15世紀フランドル都市ブルッへの市民登録簿」『ヨーロッパ文化史研究』第14号、2013年3月、花田洋一郎「中世後期フランスにおける都市議事録研究の成果と課題—最近の研究から—」『比較都市史研究』第31巻第2号、2012年6月、

齋藤綱子「中世エノー伯領の都市の自由—商業流通と領主権力—」『明治大学人文科学研究所紀要』第73号、2013年3月、以上の研究成果には、「資料の徹底した収集と整理に力を注ぐ」とした、海外調査結果（藤井：ベルギー）も含まれている。

第2に、学会等における研究発表については、青谷秀紀・加来奈奈による計3件のそれが、前年度に引き続き特筆する業績となっている。

以上、主要な成果に絞って記したが、本研究の今1つの特徴であるブルゴーニュ国家の南北各ブロック分担研究により、3年間の予定研究期間全体を通じて、均衡の取れた業績結果となっていることを最後に強調しておきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計23件）

<平成24年度>

- (1) 河原温「シャルル・ル・テメレールと15世紀後半ブルゴーニュ宮廷の政治文化—宮廷イデオロギーの形成をめぐる—」『人文学報』（首都大学東京）第475号、2013年3月、pp.1-14. 査読無 DOI及びURLなし
- (2) 藤井美男「中世後期南ネーデルラントの商業組織に関する考察—ロンドンのフランドル＝ハンザを中心に—」『経済学研究』第79巻第5・6合併号、2013年3月、p.119-155. 査読無 DOI及びURLなし
- (3) 齋藤綱子「中世エノー伯領の都市の自由—商業流通と領主権力—」『明治大学人文科学研究所紀要』第73号、2013年3月、p.73-87.（研究協力者） 査読無 DOI及びURLなし
- (4) 齋藤綱子「中世エノー伯領における共同体の「自由」と制定法」『駿台史学』第147号、2013年1月、p.101-125.（研究協力者） 査読無 DOI及びURLなし
- (5) 畑奈保美「15世紀フランドル都市ブルッへの市民登録簿」『ヨーロッパ文化史研究』第14号、2013年3月、pp.135-147.（研究協力者） 査読無 DOI及びURLなし
- (6) 花田洋一郎「中世後期フランスにおける都市議事録研究の成果と課題—最近の研究から—」『比較都市史研究』第31巻第2号、2012年6月、pp.4-5. 査読無 DOI及びURLなし

- (7) 青谷秀紀「フランドルと英仏」、朝治啓三・渡辺節夫・加藤玄編『中世英仏関係史 1066-1500—カペー・ヴァロワとプランタジネット—』創元社, 2012年4月, pp. 196-219. 査読無 DOI及びURLなし

<平成23年度>

- (8) 花田洋一郎「中世後期フランスにおける都市議事録研究の現状と課題—最近の研究から—」『西南学院大学経済学論集』第46巻第3・4号, 2012年3月, pp. 29-51. 査読無 DOI及びURLなし
- (9) 畑奈保美「14-15世紀ヨーロッパにおける一つの国家的統合の試み:ブルゴーニュ国家」、『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容に関する研究(平成19年度~平成23年度私立大学学術研究高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター整備事業」研究成果報告書)』(東北学院大学) 2012年3月, pp. 137-149. (研究協力者) 査読無 DOI及びURLなし
- (10) 青谷秀紀「赦しのポリティクス—中世後期ネーデルラント都市の贖宥とブルゴーニュ公—」『清泉女子大学紀要』第59号, 2011年12月, pp. 21-35. 査読無 DOI及びURLなし
- (11) 藤井美男「中世後期ブリュッセル市外市民とブラバント(ブルゴーニュ)公権—ヴァン=アウトフェン事件を事例として—」『経済学研究』第78巻第2・3合併号, 2011年9月, pp. 121-155. 査読無 DOI及びURLなし
- (12) 青谷秀紀「顕現する天上都市、遍在する永遠の都—中世後期南ネーデルラントの宗教儀礼と都市の聖地化—」藤巻和宏編『聖地と聖人の東西—起源はいかに語られるか—』勉誠出版, 2011年8月, pp. 84-106. 査読無 DOI及びURLなし
- (13) 藤井美男「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成—パネルの課題と意義—」(第79回全国大会パネル「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成」)『社会経済史学』第77巻第2号, 2011年8月, pp. 151-155. 査読有 DOI及びURLなし
- (14) 花田洋一郎「14世紀後半フランス王国及びブルゴーニュ公領の財務官僚ニコラ・ド・フォントウネ—地方役人の社会的上昇の軌跡と富の蓄積—」(第79回全国大会パネル「ブルゴーニュ国家における財政シ

ステムの形成」)『社会経済史学』第77巻第2号, 2011年8月, pp. 157-172. 査読有 DOI及びURLなし

- (15) 中堀博司「製塩所グランドーソヌリ長官ジャン・シュザの活動—塩鉱山経営とブルゴーニュ国家財政—」(第79回全国大会パネル「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成」)『社会経済史学』第77巻第2号, 2011年8月, pp. 173-188. 査読有 DOI及びURLなし
- (16) 畑奈保美「フランドルにおける援助金の交渉と徴収」(第79回全国大会パネル「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成」)『社会経済史学』第77巻第2号, 2011年8月, pp. 189-203. 査読有(研究協力者) DOI及びURLなし
- (17) 齋藤綱子「ヴァランシエンヌの「平和規約」(1114)—ロマンス語訳(1275)作成の背景—」『駿台史学』第142号, 2011年3月, pp. 139-152. (研究協力者) 査読無 DOI及びURLなし

<平成22年度>

- (18) 金尾健美「ヴァロワ家ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの財政(7)—御用金と借入金—」『川村学園女子大学研究紀要』第22巻第2号, 2011年3月, p. 208-223. 査読無 DOI及びURLなし
- (19) 河原温「15世紀ブルゴーニュ公国における地域統合とフランドル都市—ブルゴーニュ公とブルッへの儀礼的關係を中心に—」渡辺節夫編『ヨーロッパ中世社会における統合と調整』(創文社) 2011年3月, pp. 243-261. 査読無 DOI及びURLなし
- (20) 青谷秀紀「プロセクションと市民的信仰の世界—南ネーデルラントを中心に—」『西洋中世研究』2号, 2010年12月, pp. 36-49. 査読有 DOI及びURLなし
- (21) 畑奈保美「ブルゴーニュ時代フランドルにおける都市・シャテルニー紛争—ブルッへ市外市民をめぐって—」『比較都市史研究』第29巻第2号, 2010年12月, pp. 10-11. (研究協力者) 査読無 DOI及びURLなし
- (22) 畑奈保美「15世紀初期におけるフランドル都市ブルッへの参審人団」『比較都市史研究』第29巻第2号, 2010年12月, pp. 33-45. 査読有(研究協力者) DOI及びURLなし
- (23) 河原温「中世ブルッへの兄弟団と都市儀礼」深澤克己・桜井万里子(編)『友愛と秘密のヨーロッパ社会文化史』(東京大学

出版会) 2010 年, 11 月, pp.109-132.
査読無 DOI及びURLなし

[学会発表] (計 2 2 件)

<平成24 年度>

- (1) 加来奈奈「16 世紀前半ネーデルラントの統一と渉外活動—1529 年カンブレ平和条約履行における交渉人ジャン・ド・ル・ソーの機能—」第39 回関西ベルギー研究会, 西宮市大学交流センター, 2012 年7 月29 日. (研究協力者)
- (2) 青谷秀紀 Aotani, H., “The Papal Indulgence as a Communication Medium in the Conflict between Charles the Bold and Ghent, 1467-69”, International Medieval Congress, (University of Leeds, England, 10 July 2012). (2012 年7 月10 日)
- (3) 加来奈奈「カール 5 世期ネーデルラントの国家形成と貴族の動向—フランスとの境界をめぐる問題—」第4 回西洋中世学会大会, 慶応義塾大学, 2012 年6 月24 日 (ポスター・セッション). (研究協力者)

<平成23 年度>

- (4) 加来奈奈「16 世紀平和条約における南ネーデルランドが担う“仲介国家”についての考察—1529 年カンブレ平和条約施行における交渉人ジャン・ド・ル・ソーの機能—」第33 回関西ベルギー研究会 (西宮市大学交流センター) 2011 年12 月25 日. (研究協力者)
- (5) 花田洋一郎「15 世紀トロワの市政運営と都市社会—都市評議会議事録(1429-1433)の分析—」第411 回比較都市史研究会 (日本ハンザ史研究会・ブルゴーニュ公国史研究会合同) (早稲田大学) 2011 年11 月19 日.
- (6) 藤井美男「13 世紀南ネーデルラントの商業組織に関する一考察—ロンドンのフランドル=ハンザを中心に—」第411 回比較都市史研究会 (日本ハンザ史研究会・ブルゴーニュ公国史研究会合同) (早稲田大学) 2011 年11 月19 日.
- (7) 青谷秀紀「宗教行列から読みとく市民の信仰世界—中世後期のフランドル都市ブリュージュを中心に—」第29 回土曜自由大学 (清泉女子大学) 2011 年5 月28 日.

<平成22 年度>

- (8) 奥西孝至 Okunishi, T., ‘Theoretical understanding and Historical reality’, ” Historical Reality and Theoretical Understanding”, at “Historical role of Belgium and the Netherlands in European Integration” in KUBEC Opening Symposium, Brussels, Belgium. (2011 年3月9日)
- (9) 中堀博司「ブルゴーニュ宮廷の故郷デジョン」東北学院オープン・リサーチ・センター公開講演会『ブルゴーニュ公国の宮廷と都市—中・近世ヨーロッパの十字路—』(東北学院大学) 2011 年3 月5 日.
- (10) 青谷秀紀「約束の地へ?—ネーデルラントのなかのブルゴーニュ宮廷—」東北学院オープン・リサーチ・センター公開講演会『ブルゴーニュ公国の宮廷と都市—中・近世ヨーロッパの十字路—』(東北学院大学) 2011 年3 月5 日.
- (11) 畑奈保美「ブルゴーニュ公国、その統合の試み」東北学院オープン・リサーチ・センター公開講演会『ブルゴーニュ公国の宮廷と都市—中・近世ヨーロッパの十字路—』(東北学院大学) 2011 年3 月5 日. (研究協力者)
- (12) 畑奈保美「ブルゴーニュ時代のフランドルの都市・シャテルニー紛争—ブルッヘ市外市民をめぐる—」比較都市史研究会第402 回例会 (早稲田大学) 2010 年10 月23 日. (研究協力者)
- (13) 青谷秀紀「プロセセッションと市民的信仰の世界—南ネーデルランドを中心に—」西洋中世学会第2 回大会シンポジウム『メディアと社会』(名古屋大学) 2010年6 月27 日.
- (14) 藤井美男「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成—パネルの意義と課題—」社会経済史学会第79 回全国大会パネル・ディスカッション「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成」(関西学院大学) 2010 年6 月20 日.
- (15) 花田洋一郎「14 世紀後半フランス王国及びブルゴーニュ公領の財務官僚ニコラ・ド・フォントゥネー—地方役人の社会的上昇の軌跡と富の蓄積—」社会経済史学会第79 回全国大会パネル・ディスカッション「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成」(関西学院大学) 2010年6 月20 日.
- (16) 中堀博司「製塩所グランドーヌスリ長官ジャン・シュザの活動—塩鉱山経営とブルゴーニュ国家財政—」社会経済史学会第79

- 回全国大会パネル・ディスカッション「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成」(関西学院大学) 2010年6月20日.
- (17) 畑奈保美「フランドルにおける援助金の交渉と徴収」社会経済史学会第79回全国大会パネル・ディスカッション「ブルゴーニュ国家における財政システムの形成」(関西学院大学) 2010年6月20日。(研究協力者)
- (18) 河原温「ブルゴーニュ公国における地域統合と都市—シャルル・ル・テメレール期の政治文化を中心に—」歴史学研究会合同部会(専修大学) 2010年5月23日.
- (19) 奥西孝至 OKUNISHI, T., "From consumption center to gateway city: Ghent and grain circulation" at URB02; Theorizing Gateway in 8th European Social Science History Conference, Gent, Belgium. 2010年4月13日.
- (20) 藤井美男「課題呈示」社会経済史学会九州部会(ミニ・パネルディスカッション)「中世後期ヴァロワ朝ブルゴーニュ国家の財政—財源と徴収をめぐって—」(九州大学) 2010年4月24日.
- (21) 中堀博司「形成期ブルゴーニュ公国における財務役人ジャン・シュザの活動—塩鉱山経営へのかかわりを中心に—」社会経済史学会九州部会(ミニ・パネルディスカッション)「中世後期ヴァロワ朝ブルゴーニュ国家の財政—財源と徴収をめぐって—」(九州大学) 2010年4月24日.
- (22) 畑奈保美「フランドルにおける援助金の交渉と徴収—14世紀末から15世紀初めの都市・農村地区とブルゴーニュ公—」社会経済史学会九州部会(ミニ・パネルディスカッション)「中世後期ヴァロワ朝ブルゴーニュ国家の財政—財源と徴収をめぐって—」(九州大学) 2010年4月24日。(研究協力者)

[図書] (計1件)

- (1) 青谷秀紀『記憶のなかのベルギー—中世—歴史叙述にみる領邦アイデンティティの生成—』(京都大学学術出版会) 2011年4月.

[その他]

ホームページ等

[http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F\(main\).htm](http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 美男 (FUJII YOSHIO)
九州大学・大学院経済学研究院・教授
研究者番号: 70183928

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

川原 温 (KAWAHARA ATSUSHI)
首都大学東京・人文科学研究科・教授
研究者番号: 70186120

奥西 孝至 (OKUNISHI TAKASHI)
神戸大学・経済学研究科・教授

研究者番号: 20211815

金尾 健美 (KANAOKI TAKEMI)
川村学園女子大学・文学部・教授
研究者番号: 20286173

花田 洋一郎 (HANADA YOICHIRO)
西南学院大学・経済学部・教授
研究者番号: 40284476

青谷 秀紀 (AOTANI HIDEKI)
清泉女子大学・文学部・講師
研究者番号: 80403210

中堀 博司 (NAKAHORI HIROSHI)
宮崎大学・教育文化学部・准教授
研究者番号: 90423558

(4) 研究協力者

斎藤 綱子 (SAITO KEIKO)
明治大学・文学部・教授
研究者番号: 90022467

畑奈 保美 (HATA NAOMI)
尚絅学院大学・非常勤講師
研究者番号: なし

加来 奈奈 (KAKU NANA)

奈良女子大学・大学院人間文化研究科・博士後期課程(比較文化学専攻文化史論講座)
研究者番号: なし